

東京修猷会会報 35 号特別記念号

繋げたい、繋がるの思いでつくる同窓会

東京修猷会

題字・箱島信一書
発行 修猷館同窓会
東京支部事務局〒185-0034
東京都国分寺市光町 2-14-85
(有)パルティール内
FAX 042-573-5060
東京修猷会ホームページアドレス
<https://www.shuyu.gr.jp/tky/>

今号は創刊以来、初めて現役高校3年生への配布を試み、また、35号という節目を迎えたことから、特別記念号と題しています。その巻頭を飾る記念企画として、福岡本部から津田純嗣会長をお招きし、東京修猷会の伊藤哲朗会長と、令和4年度東京修猷会総会のテーマ「繋がり」をキーワードに対談いただきました。

伊藤 まず初めに、私の卒年がS42年で津田会長の卒年はS44年なので、現役の時が3年と1年で重なっていますが、当時面識はなかったですね。

津田 はい、なかったですね。先生方も学年を持って上がるから共通の恩師もないですし、当時、縦に繋がるという機会も余りないですね。

伊藤 そうですね。私は、3年の前期は生徒会の執行部の活動に忙しく、後期は運動会のブロックの役員でしたが、1年生は何人か知っている程度でした。

津田 私は1年の時には運動会は楽しむばかりでした。3年の後期に執行部で運動会の運営をやりました。当時のことを思い出すとパンカラを装わなきゃいけないという風潮があつて、ツヤつけて、昔の学生風を気取って下駄を履いていましたね(笑)。

伊藤 私も履いていました！

パンカラが流行っていたとは言え、下駄を履いていたのは10名もいなかったと思うのでそのうちの2人が今日ここに揃うというのは面白いですね。

色々な個性があつて、それを受け入れる幅の広さがある楽しい学校でした。そう言えば、先生から「勉強しろ！」と言われたことは、一度もなかったです。

伊藤 今のような進学指導もなかったですね。

津田 そう。それで、面白いエピソードがありましてね。私の仲の良かった同級生は成績が最下位だったので、先生に「流石にこれじゃいかん、補習

色々な個性があつて、それを受け入れる幅の広さがある楽しい学校でした。そう言えば、先生から「勉強しろ！」と言われたことは、一度もなかったです。

伊藤 自由には責任が伴うことがわからなかったのかもしませんが、皆、先生にも自分が正しいと思うことをはっきり言っていましたね。

組織が持っている記憶で受け継がれていく修猷氣質

もつて学べ。そして3年目にどう後輩へ繋げばいいか、その時に考える」と言われました。私はその言葉を信じ、その通りにやってみました。卒業にあたり、さすが、伝統の修猷館！先輩の仰ることは正しいと思っていました。と、卒業生が述べてくれました。それを聞いた時は、嬉しくて嬉しくて、社会が変わり、環境が変化し、外から圧力がかかる中、修猷館ならではの教育

験、学びがある。そういう目で見て欲しい」とね。先輩である私たちが「そういう考え方もあるのか」と、後輩から気付きや刺激をもらって元気づけられました。それもあつて、同窓会の存在や交流、多くの頼れる先輩がいるという事実を、学生のうちに知ってもらいたいという平成7年卒の編集委員の申し出を受け、今号を現役生に配布する運びになった次第です。

津田 修猷の伝統を残す形で、今の生徒たちが、うまく先に進んでいけるかをしっかりと考えてあげてサポートしていく必要がありますね。

伊藤 哲朗会長(昭和42年卒)
会長在任期間：平成30年～
元警視總監・元内閣危機管理監
現東京大学客員教授

津田 純嗣会長(昭和44年卒)
会長在任期間：令和3年～
安川電機社長・会長、現特別顧問
北九州商工会議所会頭、
福岡経済同友会代表幹事



自主を重んじる幅の広さが楽しい

伊藤 だからといって、パンカラじゃないと修猷生ではないという訳でもなかった。

津田 そう、なんでもあり！ただただ勉強するという人もいたし、学校がどちらかというと保守派なのに、毛沢東語録を手に人民服を着て学校に来る人もいましたね(笑)また、それを学校が許してましてね。

する。」と言われました。すると、その同級生は先生に対して、「修猷館は自主を重んじて勉強したくない奴は勉強しないで良い唯一の高校である」と、私は認識している。だからこそ、ここに通うためにこれまで必死に勉強して、入学しました。故に私はここにいる間は絶対勉強しないと決めています」と言いましたね。何を言うかと思えば……ですが、本当に言ったのです。後で大

修猷館では時代が違ふし、かなり変わっただろうなと同窓会長になった時、ちょっと心配もありました。ところが、去年の卒業式の答辞で、「修猷館に入って最初に経験した館歌の練習で、先輩からいきなり怒鳴られたため、その場で先輩に文句を言いました。すると先輩から、何も知らずに批判をするものではない。1年目は何も言わずに黙って型を覚えろ。2年目に批判の目を

育の独自性を保つのは容易なことではない。それでも組織が持っている記憶、伝統という文化を、今も尚、学生たちが主体となつて、どう繋げていくかを考えてくれている、それが素晴らしいです。

伊藤 東京修猷会の二木会の新入生歓迎会の時にも、新入生が良いことを言ってくれましたね。「私たちは、コロナで可哀想な世代ではない。この状況だからこそ、得られた経

立記念日に卒業生によるキャリアセミナーと、基調講演の2つが行われています。福岡本部の同窓会は、大きく2つ役割があつて、1つは学校教育を資金面も含めてどうやってサポートしていくか。これは一般社団法人修猷協会という同窓会の他に学校やPTAも入った別組織があり、同窓会のお金を管理しながら学校がやりたいことをサポートしています。最近だとグラウンドを人工芝にしたり、学生を海外研修旅行に行かせるなどの支援をしていますね。もう1つは同窓生同士のコミュニケーションに形作ること。そのために、名簿管理委員会や青葉編集委員会、HP運営委員会や資料館運営委員会、歴史伝統伝承委員会などが機能しています。

同窓生個人としての支援同窓会組織としての支援

伊藤 私の学生時代にも、先の進路を決めるきっかけ、サポートみたいなものがありました。3年生の時に、私の6年先輩で同窓会長にもなれた久保田勇夫さん(S36年卒)が大蔵省に入省されて、そこからオックスフォード大学に留学するタイミングで福岡に帰省されている時に、先生から勧められたとかで、高校で講演会がありました。数十人いた聴衆の一人として私も聞きに行きました。久保田さんから役人とはこういうものだという話を聞いて、役人の仕事に興味を湧き、後に私が役人になる大きな指針となり、進学や学部を考えるきっかけにもなりました。先輩の自らの経験や教を披露いただくことは、後輩にとっても、大きな意味付けがありますね。

津田 今も、似たようなことを定期的にやっています。創立記念日に卒業生によるキャリアセミナーと、基調講演の2つが行われています。福岡本部の同窓会は、大きく2つ役割があつて、1つは学校教育を資金面も含めてどうやってサポートしていくか。これは一般社団法人修猷協会という同窓会の他に学校やPTAも入った別組織があり、同窓会のお金を管理しながら学校がやりたいことをサポートしています。最近だとグラウンドを人工芝にしたり、学生を海外研修旅行に行かせるなどの支援をしていますね。もう1つは同窓生同士のコミュニケーションに形作ること。そのために、名簿管理委員会や青葉編集委員会、HP運営委員会や資料館運営委員会、歴史伝統伝承委員会などが機能しています。

修猷館を軸に見ると
東京は地方

津田 福岡ではね、ちょっと様子が違って、修猷が集まると勢力が強くなり過ぎる。例えば、福岡の会社の中で修猷会をつくと超主流派になっ



てしまうので、少し大人しくしているようです、逆にね。
伊藤 そうなると修猷ではない人が居心地悪くなってしまうからでしょうかね。

津田 福岡から修猷館を軸にして見ると東京も地方です。地方は修猷生がバラバラに存在しているから集まらないといけない。だから東京は地方です(笑)周りに同窓がいると集まりたくなるのは、福岡県人会に近い部分があるのかもしれないですね。もう少し凝縮した、脈々と流れる修猷の心の文化を共有したくて。

伊藤 福岡県人会より、互いの共通話題が多いので、もっと濃密なものになりますね。それで、たかだか3年の学生生活から同窓会へと繋がっていくのですが、いったい何が繋がっていると思いますか？

津田 全ての学校がそういう訳ではないみたいですよ。

伝統と文化、楽しかった
記憶が同窓会の原動力



あつて良いですね。講演依頼がきて初めて二木会に参加した時、毎月これだけの人数が集まっているのかと驚きました。当時はコロナ前でしたので、百人以上はいましたね。普通、講演会をやっても、なかなかこの人数を集めるのは大変なことですよ。それを同窓だけで、しかも毎月やるのは、ちょっと異常だと思いました(笑)

伊藤 二木会みたいなことをやっている高校の同窓会は、東京でも余り聞かないです。二木会は650回以上続いているので、先輩たちが繋いできたものを自分たちの代で止められないと、幹事学年は意地です。やってくる面もあるようですが、津田 やりすぎる！そこまでやるか！というのが修猷館らしさでもあります。館友の仲間が持っている知識を共有しようという二木会は本当に素晴らしいと思います。

切磋琢磨する仲間の
プラットフォーム

伊藤 最後に現役生や同窓会になかなか参加できていない方たちへのメッセージで締めたいと思いますが、津田会長お願い致します。

津田 現役生が、この会報を読む頃は受験勉強真っ只中だと思えますが、頭のトレーニング期間だと思って頑張ってくださいですね。そして晴れて東京に出てきた際は、東京修猷会を訪ねてみるというですね。良いお手本、本当に相談できる人たちは周りに山ほどいるし、それぞれが修猷館で素晴らしい経験をして、社会に出て心豊かな生き方を実践している人たちだから、遠慮せず頼るといいと思います。

伊藤 毎月の二木会で臆せず相談してくれば、その場にいる誰かが答えてくれますよ。
津田 また、社会に出ると、どうしても自分の仕事絡みや生活圏の人と関わる人が多くなり、それ以外の人と関わるのは億劫かもしれません。来たら来たで異業種の人たちとの交流があり、新しい発想が生まれるので楽しいですよ。
伊藤 そうですね。津田さんも私も若い頃はほとんど同窓会に関わってなくて、二木会をやっていることすら知らなかった。でも、一度参加して、それぞれ孤軍奮闘している人がこんな風に周りに大勢いることがわかると、楽しくなりまして、自分も頑張ろうという元氣ももらえます。修猷館のように、個人のみなならず、学校と同窓会、先輩と後輩、本部と支部、が、互いに気概をもち、尊重し合いつつ繋がろうと、切磋琢磨できる関係性を築けている高校は、全国でも少ないと思います。



東京修猷会会報が35周年を迎えられたこと、おめでとうございます。卒業生の一人として大きな喜びと誇りを感じます。そしてこの3月、修猷館を巣立つご予約の3年生の皆様さん、どのようなお気持ちでお過ごしでしょうか。

私が修猷館高校を卒業したのはちょうど50年前のことです。当時はまだ携帯電話すらありませんでしたし、コンピュータも企業の一部で活用され始めていたが、後にパソコンの原型になるNECのマイコンキットが発売されたのは、私が大学3年生のときでした。コンピュータに興味を持っていた私は大学で情報工学を学び、ICT産業を担うNECに就職しました。

いまや企業や学校、さらには私たちの日常生活において、ICTは欠かせないものになっています。50年前の私自身も、コンピュータで便利になる未来に憧れてはいましたが、そこからわずか50年で今日の暮らしがあることを今思うと、改めて驚きを感じます。そして、自分がその実現に少しでも貢献できたのであれば、そのことを誇らしくも思います。

これから人間社会は情報社会に続く**データ社会**という新たな段階に入り、さらに進化をしていくことになりました。**データ社会**では、私たちの身の回りの事象や人間の行動など、あらゆるデータがデジタルデータとなり社会に活かされます。皆さんのデータの組合せから新しい価値が生まれ、その価値づくりはAI(人工知能)を中心としたサイバー空間が担います。サイバー空間を支えるICTは、これからの人間社会でもさらに大きく進化するでしょう。
データ社会で求められる価値は、私たちの生活を便利にするだけでなく、地球規模でのエネルギーや食料、貧富の格差といった大きな社会課題の解決に繋がります。そのためにはICTの力だけではなく、人間社会や地球環境の成り立ちを深く掘り下げて、どんなデータを集めて組み合わせればいいのか、そういうデータを集めるためには何が必要か、さらにはAIで導かれた答えを人間社会に適用するためには何が必要なのか、といったことを考えることがとても重要になっていきます。そこには、お金や商売などの経済の仕組みや、法律やルールのような社会の制度、さらには文化や宗教のような人々の考え方や生活様式などの問題が大きく関わってきます。デジタル化は社会のあり方そのものを大きく変えるのです。

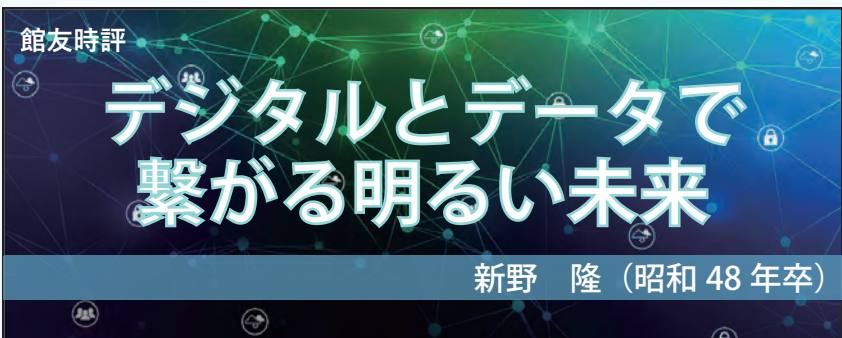
ここ数年の新型コロナウイルスによる感染拡大は、未知のウイルスへの対応に加えて、人々が移動したり集まったりして活動してきたことについて、本当に必要なことは何かという観点での見直しを迫ることになりました。

また、今日の世界を見ても、世界中の人々がいろいろな興味や関心に基づいて、インターネットで自由に繋がっている一方、国と国との間、あるいは国の中においても、人々の考え方の違いが時に大きな困難や不幸を生み出す状況があります。

人間はそれぞれが独自の考え方や能力を持っていて、それが**ダイバーシティ**と言われるように人類の大きな強みであるわけですが、同時にそれは弱みとなる可能性もあるのです。

強みをさらに高めるうえでも、あるいは弱みを克服するうえでも、一番大切なことは、人と人、人と社会が繋がりが、互いに理解し合うことだと私は信じています。これもICTの重要な役割の一つであり、繋がること、繋がること、繋がることが、新しい価値を生んで発展してゆくための基本です。私たちはそうした価値創造に貢献できるよう、日々の努力を続ける必要があります。

いつでも目的地に連れて行ってくれる交通。世界の誰とでも簡単に会話できるコミュニケーション手段。病気を未然に防ぐ生活を導いてくれる住まい。意識しなくても地球にやさしい環境が保てる街。こうした「かつての夢」は既に見え始めています。若い世代には少しでも「その先の夢」をイメージして自分のできることに取り組んでもらいたい。50年後の人間社会が平和で明るいものであり、そこでの暮らしを支える仕組みの実現に、私たち修猷館の仲間が一人でも多く関わって欲しいと思います。



館友時評

デジタルとデータで
繋がる明るい未来

新野 隆 (昭和48年卒)



新野 隆 (にいの たかし)
日本電気株式会社
取締役会長

～つながる、つなげる修猷 7G～ 東京修猷総会 2022

未来に繋ごう変革のDNAを

令和4年度総会実行委員長 吉田 貞信(平成7年卒)

令和4年6月9日、新宿のハイアットリージェンシー東京において東京修猷会総会を実施しました。コロナ禍の中で皆で集うことができなかった2年間を取り戻すべく、「集おう！健児一千人」つながる、つなげる修猷7G」をテーマに、様々な世代のOB



OGたちで集い、近況を語り合えるよう企画準備を進めてきましたが、最終的にリアル会場では飲食なしの150名限定着席で実施し、その模様をリアル会場及びオンライン配信のハイブリッド方式で、全体で約500名超の皆様に参加、視聴頂きました。先例のない形式の総会でしたが、皆様のお力添えのもと、幹事学

会場担当を振り返って

令和4年度総会実行委員 上原 龍(平成7年卒)

令和4年度総会の会場担当は同じ剣道部出身の福地大二郎君と上原龍の二名が務めさせて頂きましたが、会場担当としては悩むことが多かったというのが正直な感想です。準備開始当初は、宴会も含めたフル開



催しの方向で検討しておりましたが、コロナ禍の第6波が発生したことを受け、何らかの行動制限が適用される可能性を視野に入れる必要が生じました。宴会の有・無しや、参加人数規模に応じた収支シミュレーションを繰り返し行い、最終的には、行政の要請等により飲食が行えなくなる

初めて東京修猷会総会に参加して

西木 沙耶加(令和4年卒)

まず、東京修猷会総会を対面形式で開催していただきありがとうございます。東京での新生活に不安を抱える中で先輩方

聞かせていただく機会があることは大変心強いことです。また、岡本館長や高校時代に熱心にご指導いただいた泉先生や恩師の方々が優しく

東京修猷会総会に参加して

福地 祐一(昭和37年卒)



私は修猷館昭和37年卒業で79歳になる。

私には4人の孫がいて、一番年長の娘の長男が昨年3月に修猷を卒業して目下浪人中、息子を含め3代に渡る修猷の卒業生一家だ。

東京修猷会の総会には、例年、東京にいる2人の孫の顔を見に行くついでに顔を出している。コロナ禍前は、私の同期生も10名位は出席して、2次会で新宿近辺を楽しく飲み歩いたものだが、昨年は私の同期は大須賀元会長一人だけで少し寂しい思いをした。

しかし、当番学年の息子の同期生には何人か顔見知りがあった。受付では、「お父さんです」と息子の剣道部仲間の竹下さんが声をかけてくれた。

あけてください。もちろん、何の努力もしないでただ、信じるだけでは勉強や部活においても結果を出すことは難しいでしょう。しかし、これまでしてきた努力は信じてあげてもいいものだと思います。

時にはすぐに成果が出ず苦しいと感じることもあるかもしれませんが、結果は必ずついてきます！苦しい時こそ踏ん張り時なのです。皆さんには困ったときに頼れる修猷というつながりがあります。一人で乗り越えることが困難

リアル会場で総会に参加してみても

草柳 輝(平成23年卒)



修猷館の先生や先輩方の言葉には、卒業してから心も動かされることが多々あります。昨年の総会で特に印象に残ったのは、恩師の先生方と岡本館長先生のお話でした。

修猷館での思い出を語られる中で、なぜか今の自分に刺さる言葉があったり、在学中の自分を思い出したりもしました。とにかく一生懸命だった高校時代に思いを馳せているうちに、不思議と「また明日もがんばろう」という前向きな気持ちにもなれました。社会に出ると何かと背負うものが増えたり、大きな課題に直面したり、時には思い悩むこともあるかと思いますが、先輩の皆さんもぜひ同窓生とのつながりを大切に、機会があれば先輩にも気軽に話しかけてみてください。また、会場でお会いしたのがきっかけで新たなつながりも生まれ、まさに総会のテーマが実現した一日となりました。

幹事学年の皆様、本当にありがとうございました。

館友の絆を感じたオンライン参加

澤 毅(平成13年卒)



昨年のハイブリッド形式での総会には、私はオンラインの方で参加させていただきました。私がコロナ禍の数年前で実感したことも踏まえ、どんなことがあっても、その時を前向きに楽しめ、自分の持ち味を発揮して欲しいと願っています。そこから開ける道も出てくるでしょう。近いうちに、皆さんとオンラインでお会いできることを楽しみにしています。



総会テーマの7Gは、10代から70代オーバの幅広い世代（ジェネレーション）と、先端の通信企画6Gのその先（未来）とを掛けた造語です。世代を超えて幅広く繋がり、またその関係性が未来に続いていくことを願っています。

最後に七猷会の先輩方、試行錯誤の中の総会の運営本当にありがとうございました。



東京修猷会総会

福岡県立修猷館高等学校同窓会 令和5年度

— 同じ窓辺でまた会いましょう。—

日時・会場

開催の詳細については東京修猷会のホームページ
(<https://shuyu.gr.jp/ky/skikaku/2023>)をご覧ください。

お問い合わせ先

jimu@shuyu-h8.org

東京修猷会ホームページ



平成8年卒 平8会

**高柳 健二さん S61年卒**

ホテリエひとすじ31年です。ホテルオークラ東京でキャリアをスタート、オランダ、グアム、つくば、福岡での勤務を経て、昨年7月よりThe Okura Tokyoの総支配人に就任しました。

2012年からの10年間、インバウンドブームによる活況とコロナ禍における未曾有の落ち込みを経験したホテル業界ですが、将来を考えると「これ以上悪くなることは無い」ということは間違いないといえるでしょう。ホテルは所在する場所や施設構成によって様々な役割を求められる空間で、そこに介在する様々な職のエキスパートたちによって成り立っています。「色々なところで暮らしてみたい、色々な人と働いてみたい」という方にはピッタリの職場なのではないでしょうか？ホテリエとして30年余、総支配人として15年のキャリアを重ねて、3年前に新装なったThe Okura Tokyoの総支配人というポジションを勤めることは本当に光栄なことだと心から思います。

アフターコロナはホテル業界にとって第二の創世。一緒に業界を盛り上げていきましょう。

**村山 誠一さん S51年卒**

JX金属(株)代表取締役社長
社長執行役員(現在に至る)
日本鋳業協会会長(1年間)

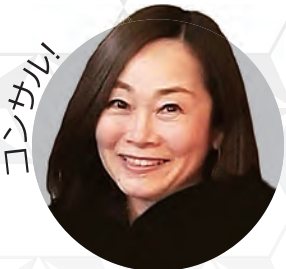
私が、人生の3分の2の長きにわたり共に歩んできたJX金属(旧日本鋳業)は、非鉄金属の資源開発・製錬から電子材料等の先端素材の製造・販売、更にはリサイクルまで一貫して展開している日本を代表する非鉄金属メーカーです。こうした非鉄製錬部門を有する企業群が、非鉄製錬業界です。近年、サステナブルな社会の実現に向けた取り組みが、真剣に論じられるようになり、資源循環型社会や脱炭素社会、超スマート社会などの未来の姿が示される中、当業界が供給する多種多様な非鉄金属素材は、こうした社会に欠かすことのできない素材であるということが、広く社会に認知されつつあるように思います。素材であるがゆえに目立ちませんが、来たれ館友！非鉄金属業界は、間違いなく現在も未来も社会を支えていく業界です。「世のため人のため」は、館友の使命です。当業界で、自由闊達、不羈独立、質朴剛健の館風を是非実践してもらいたいと願って止みません。

**和才 博美さん S40年卒**

日本電信電話公社へ入社後、技術開発などを経て代表取締役副社長。その後、NTTコミュニケーションズ代表取締役副社長、代表取締役社長を歴任。

修猷とは愛すべき場所一卒業して月日が経っても変わらない思いです。在学中に恩師から「自分自身が責任をもって行動しろ」とよく言われました。これは高校生のみならず社会人でも根幹の部分と考えます。長きにわたって携わってきた通信業界も他の業界と同様、技術革新などで取り巻く環境は大きく変化し、将来がなかなか見通せない。そのような中で大事なことは、自分のやりたいことを見つけ、人との繋がりを大切に、そして責任をもって自ら積極的に行動すること。一方、自分の思い通りにいかないことも多々あると思いますが、そんな時こそ仕事や課題に向かって逃げずに責任をもって取り組み、我慢すること、そして先輩へ積極的に相談することです。是非、修猷の先輩を使ってください。修猷の先輩後輩の絆はあなたの生涯にわたる貴重な財産です。この繋がりを大切に、更に多くの先輩、後輩との繋がりを広め、深めていってください。

つなげたい バトン

**中山 尚美さん S59年卒**

複数の事業会社・コンサル会社を経て、三菱UFJリサーチ&コンサルティングに入社。役員指名・報酬ガバナンス等のコンサルティングを提供している。

私が所属するコンサルティング業界では、企業の経営課題の解決を支援しています。戦略、財務、IT、人事などに加え、近年はデジタルやESGなど新たなテーマが次々と増え、業界の市場規模は今後も成長が見込まれています。

私自身は組織人事のうち、役員指名・報酬やサクセッション、人的資本経営を専門の軸としています。経営の様々な要素が絡み、経営者の意思も大切なため、難しい場面も少なくありません。一方、未来をより良くする経営者が選ばれ活躍されるための、意義深い仕事をしているという実感は持っています。一般にコンサルタントの仕事には「論理思考×コミュニケーション×チームワーク×専門性」が必要です。インプットとアウトプットを常に高速で回すため、心身のタフさも求められます。その分、自分の成長や貢献を実感することができるため、企業と社会の未来をより良くし、自分も成長したいと思う方に、活躍していただける業界だと思います。

**工藤 和美さん S54年卒**

シーラカンズK&H株式会社代表取締役
東洋大学建築学科教授

衣食住は人が生きていく上で、必要不可欠なものです。住はもちろん生活する家ですが、学生にとっては一日の大半を過ごすのは学校だし、社会人であれば職場という事になります。私達が生まれ、育ち、生活する上で、その場所と建築空間は切り離せません。建築に求められる環境や条件は、その時代に対応し変化します。無から、新しい空間を創造する仕事は、建築設計の醍醐味ですが、その空間を現実のものとするには、多くの施工者の汗と知恵の上に成り立っている事も事実です。頭の中にある空間イメージを、一本の線として多数重ねながら、同時に、どうやって造るのか、できた建築をどのように使うのかをしっかりとイメージする事が大切です。そのため、日頃から、人はどのような行動をとっているのか、どう感じているのかを知る事が大切です。建築は、工学と心理といったハードとソフトの両面を理解し生み出す仕事とも言えます。時代の変化に敏感でありつつ、普遍的価値を生み出す仕事とも言えます。

**福寺 誠一さん S43年卒**

森永製菓株式会社取締役
株式会社サンライズ代表取締役社長
株式会社キャリアバンク取締役首都圏統括部長

私は現在73歳になるが、まだフルタイムで第2の人生を働いている。仕事は人材関係で、修猷館36年卒業の先輩が起業した会社に勤めている。その社長が言われた「人材派遣は職を求めている方と働く人を求めている会社を結ぶ社会的貢献の高い仕事だ」との言葉に感銘を受け、全く知見のない業界で働くことになった。新たに、人材紹介・シニア顧問派遣(それなりの経験とスキルを持ったシニアを、その方を必要とする企業に紹介する仕事)・中国看護師の紹介・特定技能外国人活用事業などを立ち上げた。

私は【シニアと外国人の活躍がなければ、日本は滅びる】くらいの思いを持っている。今のシニアは元気だし、人生経験豊富で本当に貴重な人材である。外国人について言えば、夢をもって来日する人が多い。彼らの価値観も受け入れて国も発展する。そんな事業に関われる喜びとちょっとした苦労を味わいながら毎日を送っている。



松藤 圭亮さん H29年卒

東京大学工学部電気電子工学科卒。大学在学中に株式会社Yanekaraを創業、同社代表取締役。国の未踏アドバンスト事業イノベータ。第三種電気主任技術者。

脱炭素社会には、不安定な自然エネルギーを蓄え、人々が必要とするときに供給する蓄電システムが欠かせません。いま、電気自動車が社会に普及しつつあります。これら分散した多数の“蓄電池”を、クラウド上で統合し、1つの巨大な蓄電池として機能させるシステムが、私の会社のプロダクトです。いわば、ソフトウェアの力で、21世紀の黒部ダムを造っているのです。

高校生・大学生の皆さん。気候変動にさらされるのは私たち若い世代です。若い世代が自ら行動を起こす必要があります。Yanekaraでは20代前半の若いエンジニアが大活躍しています。炭素排出量を1kgでも減らすことが、地球に住み続けることにつながると信じ、福岡のお客様には飛行機ではなく新幹線で伺います。

事業を立ち上げる過程では、修猷つながりで何名もの先輩方に相談に乗って頂きました。先輩の皆様方には、実社会でのご経験をもとに、身近な後輩の挑戦を色々な形で応援して頂けると幸いです。



武田 早絵さん H14年卒

RKB毎日放送(2007年入社)「今日感テレビ」MC、ラジオ「#さえのわっふる」などを担当。他にもドキュメンタリー「All for One!」を制作し第6回日本放送文化大賞入選(九州・沖縄グランプリ)。

街で六光星の制服を見かけると嬉しくなります。西新の学び舎で過ごしたキラキラした思い出が、一瞬で蘇るのです。

私はRKB毎日放送でアナウンサーをしています。「言葉を通して誰かの力になりたい」入社してから今までずっと変わらずに抱えている思いです。私たちが正しく分かりやすく伝えることで、守れる命がある。少々大袈裟に聞こえてしまうかもしれませんが、災害についてお伝えする時などは、こんな覚悟と使命感を持って言葉を発しています。

番組作りには大人数が関わっています。ディレクター、カメラマン、音声など、多くの人がチーム一丸となり、いいものを届けようと奮闘しています。一人でも欠けたら成立しません。皆が心を合わせて一つのものを作り上げていくという姿勢は、修猷で過ごした暑い夏と重なります。仲間と共に何かを成し遂げる喜びを教えてくれた修猷での日々に感謝を込めて、今後も真摯に仕事と向き合っていきたいと思っています。



杉山 明日香さん H6年卒

ワイン研究家、理論物理学博士。ワインスクール主宰の他、レストランプロデュース、ワインと日本酒の輸出入業、書籍執筆など幅広く活躍中。

私は大学院在学時より大手進学予備校で数学の講師を長くやっていますが、15年ほど前からはワインに関する仕事で、フランスと日本を往復しています。

現在は東京でワインスクールとレストランバー、ワインショップを、パリでは和食レストランを経営するほかに、ワインと日本酒の輸出入業もやっています。

私のキャリアは「人に教える事が好き」が原点。家庭教師のアルバイトがその後予備校講師になり、自社スタッフがソムリエ試験に合格できるよう、レッスを行ったのを機にワインスクールを開校しました。毎年出版しているソムリエ試験対策本は来年で10冊目となります。

「教える」ことはその楽しさを「伝える」こと。本当に「知れば知るほど楽しくなる」んです。日仏を行き来しながら、現在の仕事を通じて、「飲」と「食」のみならず、それぞれの国の文化の良さを伝え合う架け橋になれたらと思っています。



霞が関修友会
笹田 拓志さん H16年卒

ヨット部。平成22年外務省入省（総合職）。これまで在サウジアラビア日本国大使館、内閣官房国家安全保障局等に勤務。

平成22年に外務省に入省し、現在13年目となります。御案内の方も多いかと思いますが、各省庁のOBと現役からなる霞が関修友会は、毎年一回対面での総会を実施してきているほか、先輩方のお話を聴く機会があれば適宜集まっています。コロナ禍で対面行事はしばらく開催されていませんが、2019年の総会には故・小川福岡県知事にもお越しいただいたほか、メールでの情報交換等も活発に行われています。

中央官庁に勤めていると、多くのことを成し遂げられた先輩方や、やる気に満ちた後輩に出会うことが多く、大きな刺激を受けます。国のため、国民のためという「公」の使命はどの時代も不変で、修猷生にもなじみのある価値観だと思います。若い方が心配される労働環境も、小官が入省した10年前と比べても改善していると感じます。国内外に様々な困難を抱える中、各省庁の果たす役割は益々重要です。興味を持たれた方は、ぜひ遠慮なく先輩から話を聞いてみてください。



下川 甲嗣さん H29年卒

東京を本拠地とするJAPAN RUGBY LEAGUE ONE「東京サントリーサンゴリアス」に所属。ポジションは、ロック、フランカー。

修猷館の卒業生として決して多くはないであろう、プロスポーツ選手の道へ進んだ私には必ず達成したい目標があります。それは、幼い頃からの夢でもあるワールドカップに出場することです。

近年のラグビー日本代表には、日本国籍を取得した外国人選手も多く在籍しており、私のポジションは、日本人がスターティングメンバーとして試合に出ることが難しいと世間では言われています。だからこそ、私は絶対にこの目標を達成したいと思っています。

本校在学中に、全国制覇を何度も果たした福岡県の絶対的王者東福岡を倒したあの時の修猷ラグビーのように、絶対に諦めずにこの目標を達成し、同じポジションでプレーをする日本中全てのラグビーに夢と希望を与えたいです。

現役の皆さん、OB・OGの皆様、応援のほどよろしくお願いいたします。

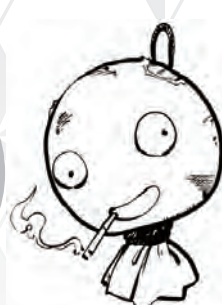


土屋 貴弘さん H15年卒

漫画家。ペンネームは「青野てる坊」 大阪大学法学部卒。(株)R博多シティに2015年入社、翌年退社して漫画家に。2017年誌面デビュー。連載3作。

会社を辞めた頃、毎日不安でした。ライバルは子供の時から漫画家を目指していた連中。片や私は脱サラしてから漫画の勉強を始めた素人。才能もない。美術は2。「だけどお前には失敗する力があるよ。」会社員時代お世話になった、ある社長からの言葉でした。「成功できるかは知らん、人に愛される失敗をしろ。」「細かいことは自分で考えろ。」そう言い捨てて切られた電話から6年。夥しい数の失敗の末、何とか連載作家になれた今、改めてその言葉を噛み締めます。漫画家という職業は例えるなら「絶海の孤島で書いた手紙を海に流して、誰かに拾って読んでほしいと願う仕事」です。人にもよりますが、大体その位に報われない仕事です。そこに飛び込むのは怖いですが、勇気がいります。その勇気をくれた言葉を、皆さんにもお伝えしたいと思って書きました。

「失敗する力」
細かい意味は、これから沢山の経験を通して、各々考えてみて頂けましたら。



河野 義博さん H8年卒

平成14年慶應義塾大学経済学部卒。農林水産大臣政務官、参議院災害対策特別委員長など歴任し、現在参議院総務委員長。全日本県道連盟顧問、剣道七段。

私の高校生活は剣道の稽古と学校行事に明け暮れた3年間でした。強烈な個性がぶつかり合う環境の中で、心身共に錬磨して頂けたと感謝の思いで一杯です。修猷を誇るな、修猷が誇る卒業生になれ、と先生・先輩方にご指導頂いた事が、私の社会人としての活動、振る舞いの大きな礎となっております。ビジネスでキャリアを積み、日本企業初の洋上風力発電事業に出資参画。念願の英国駐在を果たした直後に、思いもよらず公明党より立候補の誘いを受けました。青天の霹靂でありましたが、一度しかない短い人生を、悔いなく生きるために大きな一歩を踏み出しました。まだまだ若輩非力ではありますが、内外の情勢が極めて不安定で国難ともいうべき状況下、皆様に安心と希望の道を示すべく、地域の生活現場に深く根ざし、日々難題に挑戦してまいります。卒業生の皆様におかれましてはご自身の目標に向かい、質朴剛健・不羈独立の精神そのままだに、挑戦を継続されることを願い、ご挨拶とさせていただきます。

特別寄稿

現役生、そして館友の皆さんへ



柴垣 和夫
(昭和 27 年卒)
東京大学名誉教授



1946 年 4 月、私は旧制の中学修猷館最期の入試を受けて入学し、52 年 3 月に修猷館高校を卒業した。6 年間在学しただけに母校への思いはひとしおである。

回顧三題 在学中の思い出の第一は、貧しかったこと。当初の数年は、戦後の食糧難のもとで運動場の相当部分が生徒に貸し出され、私も不味いが量産できる品種の甘薯と南瓜を栽培した。皆がラグビーと野球に熱中したが、クラス対抗で使われた野球のグローブは布製だった。

その二は、館歌と応援歌の練習に随伴した上級生による下級生への「鉄拳制裁」(集団暴力)への抵抗。生徒会の副総務、総務となって、同志とともに 2 年間にわたり闘い、井上孝太郎館長から「暴力厳罰」の約束を得た。

その三は、最初の男女共学学年だったこと。高 1 の時、男子在校生約 1500 人に対し約 100 人の女生徒が編入した。その状況を想像して欲しい。彼女たちは大変苦労したが多くの尊敬できる修猷健女が育った。

伝えたい二つのこと 次代を担う皆さんに贈りたいことのひとつは「少数意見になることを怖れるな」ということ。私が長年携わってきた学問研究の世界では、少数意見は必ずしも新しい真理とは限らないが、新しい真理は必ず少数意見として登場する。世の中の進歩も最初は少数意見から始まり、それが次第に同意を増やして社会の改革が進むのである。

もう一つは、60 年卒の高橋真司氏が、著書『続長崎にあつて哲学する』(北樹出版、2004 年)の中で提起された「戦前責任」という言葉。明治から昭和の前半まで、日本はほぼ 10 年ごとに戦争を繰り返してきたが、第二次大戦後の 77 年に及ぶ平和の維持は、世界の中でも貴重な経験である。戦争を知る最期の世代の一人として、今の時代を新しい「戦前」にしない努力をしてほしい。ロシアのウクライナ侵攻で、時代が一世紀逆戻りしたかに見える今日だけに、強く望みたい。

東京修猷会 発足したのは私が上京した翌年の 53 年だったから、かれこれ 70 年の歴史がある。この 1 月に満 89 歳を迎える私は、1945 年旧制 4 年卒の野上三男先輩のご他界後は、藤吉敏生・箱島信一の両元会長らとともに最年長組の一員となった。毎月第二木曜日に開催の「二木会」は各界で活躍する卒業生による講

演会で、私も二度ほど講師を務めた。6 月に開催される総会とともに内容豊富なイベントで、他校の卒業生から羨ましがられることが多い。

東京修猷会は、多くの皆さんの上京を待っている。

今年の修猷卒業生に捧ぐ！
東京修猷会のホントの楽しみ方

河井 志帆(平成 7 年卒)

東京修猷会とは、その名の通り関東周辺で学び働く修猷館卒業生のための校友会組織です。「で？」と思った皆さん！校友会というと、時間とお金を持て余した人生の大先輩が集まって...と思ったら大間違いです。年に一度の「総会」のみならず、ほぼ毎月行われる「二木会」も東京修猷会の目玉です。毎月、様々な世代の、幅広い業界で活躍されている卒業生を講師に招き、学ぶ場なのです。学ぶと言っても、話を聞くだけではありません。醍醐味のひとつが、講演後の質疑応答です。先日

東京修猷会
二木会ゴルフコンペ
令和 4 年 9 月 25 日(日)

第 49 回二木会ゴルフコンペが、松本陸彦さん(昭和 39 年卒)のご協力のもと、千葉県山武グリーンカンントリー倶楽部で行われました。直前まで台風接近の予報でしたが当日は天候に恵まれ、秋のコンペとしては 4 年振りの正式開催となりました。参加者 37 名中、優勝は西岡修さん(昭和 57 年卒)、準優勝は森亮太さん(平成 6 年卒)、3 位は篠田真さん(昭和 58 年卒)、男子ベスグロはグロス 78 の森亮太さん、女子ベスグロはグロス 92 の柳田靖子さん(平成 2 年卒)でした。表彰式にあたっては皆様

より素敵な賞品を多数ご提供頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

二木会ゴルフ幹事 濱邊 和揮
(平成 7 年卒 七猷会)

次回の第 50 回二木会ゴルフコンペは、令和 5 年 4 月 16 日(日)、富士小山ゴルフクラブにて開催予定です。皆様奮ってご参加ください。



サロンのド・修猷は、記念すべき第 15 回目ということで、最近のワークショップでの開催が続いていたサロンのド・修猷でしたが、今回は原点に立ち返り、芸術鑑賞の機会となりました。3 年ぶりに会場に集うことができ、また、オンラインでも配信しました。

当日は、7 名もの館友に演奏していただきました。現在は福岡で活躍のりこーダー奏者 小池耕平さん(昭和 56 年卒)や、群馬交響楽団で活躍中のフルート奏者 白水裕憲さん(昭和 58 年卒)をはじめ、リコーフルート奏者 荒木 慎史さん(昭和 58 年卒)、アイリッシュフルート奏者の武田京さん(昭和 58 年卒)、ソニー・フィルハーモニック・オーケストラのチェロ奏者 橋本勝郎さん(昭和 61 年卒)、中学の部活からチェロを続けていらつしやる井上悟美さん(昭和 61 年



もはや東京修猷会にゆかりの深い曲となった宇佐元恭一さん(昭和 53 年卒)作詞・作曲の「つむぐ星よ」と、「館歌」を、指揮者として活躍中の岩下光樹さん(平成 6 年卒)の編曲により、7 名全員で圧巻のアンサンブル。ご参加いた

2022 年 二木会	
第 661 回 R4.1	『未来の雑誌はどんなカタチをしてるだろう？ ～ペーパーレス時代の出版業～』 松原 享氏 (昭和 61 年卒) マガジンハウス『コロカル』編集長
第 662 回 R4.2	『日本の漁業の復活を目指して！』 神谷 崇氏 (昭和 56 年卒) 水産庁長官
第 663 回 R4.3	『アフター東京パラの今こそ知ろう！～視覚障害とロービジョンケア～』 清水 朋美氏 (昭和 60 年卒) 視覚障がい国際クラシファイア・眼科医
第 664 回 R4.4	『映画「なつやすみの巨匠」を製作して』 入江 信吾氏 (平成 7 年卒) 脚本家
第 665 回 R4.5	『ウクライナ紛争と日本の防衛』 用田 和仁氏 (昭和 46 年卒) 日本安全保障戦略研究所 上席研究員
第 666 回 R4.7	『SDGs と新国富指標～豊かで持続可能な社会の実現を目指して～』 馬奈木 俊介氏 (平成 6 年卒) 九州大学主幹教授 九州大学都市研究センター長、総務補佐
第 667 回 R4.9	第 15 回 Salon de 修猷『音色でつながるあの時あの場所～リコーダー、フルート、チェロ、クラリネットの調べと管弦アンサンブル～』 小池 耕平氏 (リコーダー、昭和 56 年卒) 白水 裕憲氏 (フルート、昭和 58 年卒) 荒木 慎史氏 (クラリネット、昭和 58 年卒) 武田 京氏 (アイリッシュフルート、昭和 58 年卒) 橋本 勝郎氏 (チェロ、昭和 61 年卒) 井上 悟美氏 (チェロ、昭和 61 年卒) 木下 牧子氏 (電子ピアノ、平成 3 年卒)
第 668 回 R4.10	『天神の杜に生きて』 西高辻 信良氏 (昭和 47 年卒) 第 39 代太宰府天満宮宮司・宝満宮電門神社宮司
第 669 回 R4.11	『自立して歩き旅をしたい人の実践講座 ～国境なき Senior Wanderer 10 年の足跡～』 坪内 俊之氏 (昭和 45 年卒)
R4.12	忘年会

※肩書き、所属は講演時のもの

☆二木会の講演は 6 月・8 月・9 月・12 月を除く毎月第二木曜日に学士会館で開催しています。講演前に講師との食事会、講演後には懇親会を行い、館友同士の交流も盛んです。

☆ 9 月は「Salon de 修猷」として土曜の日に開催。

☆ 12 月は忘年会のため、講演はなく別会場となります。

——皆様に、奮ってご参加ください——

東京修猷会 URL <https://www.shuyu.gr.jp/tky/>

* Salon de 修猷 *
第 15 回
音色でつながる あの時 あの場所

【第 1 部】
それぞれにソロやデュオ、それに演奏者それぞれの高校時代の思い出の曲やエピソードなども披露していただきました。

【第 2 部】
小池さんと白水さんの演奏を堪能しました。

【第 3 部】
もはや東京修猷会にゆかりの深い曲となった宇佐元恭一さん(昭和 53 年卒)作詞・作曲の「つむぐ星よ」と、「館歌」を、指揮者として活躍中の岩下光樹さん(平成 6 年卒)の編曲により、7 名全員で圧巻のアンサンブル。ご参加いた



だいた皆様、誠にありがとうございました。ございました。

このサロンをもって、六星会の二木会運営は全て終了いたしました。先輩方や後輩の皆さんに常に導いていただきながらなんとかやり遂げることができました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

村上 美奈子(平成 6 年卒)

東京修猷会 2023 年 活動スケジュール	
1 月	※各日程・場所は予定であり、変更になる可能性があります。 ※二木会講演は 6、8 月を除く毎月第二木曜日に開催。 元旦 会報発行 (住所登録済の全会員に送付)
2 月	12 日(木) 二木会 於：学士会館
3 月	9 日(木) 二木会 於：学士会館
4 月	23 日(木) 春期常任幹事会 於：学士会館
5 月	16 日(日) 二木会ゴルフコンペ 於：学士会館
6 月	11 日(木) 二木会 於：学士会館
7 月	13 日(木) 二木会 於：学士会館
8 月	2 日(土) サロン・ド・修猷 於：学士会館
9 月	18 日(月) 祝二木会ゴルフコンペ 於：学士会館
10 月	12 日(木) 二木会 於：学士会館
11 月	26 日(木) 秋期常任幹事会 於：学士会館
12 月	9 日(木) 二木会 於：学士会館
14 日(木)	二木会忘年会 於：未定

「大運動会よ、不死鳥のように羽ばたけ。」

第75回大運動会
運営委員長
大橋 了士（3年）

第75回大運動会のスローガンは、「不死鳥」でした。このスローガンには3つの意味が込められていましたが、それぞれの意味が大運動会によく反映されていました。

1つ目の意味は「永遠」で、長い歴史を持つ大運動会を絶対に絶やさないという意思を込めました。昨年の使命は、「昨年出来なかった大運動会を出来る限り完全な形で復活させることでしたが、不死鳥が灰から蘇るように、見事に大運動会を復活させることが出来ました。」

2つ目の意味は「新しい姿」で、復活するならば、より素晴らしい形に生まれ変わらせたという思いを込めました。昨年は、新競技の旗取りやエールの男女制限撤廃等を行いました。中でも女子エールでは、全体エールに出る程の実力を持つ生徒も現れました。

3つ目の意味は「燃え上がる炎」で、修猷生それぞれが個性を発揮し、互いに感化し合いながら己の個性を磨いていってほしいという願いを込めました。昨年は3年生が個性派揃いで、大勢の前で己をさらけ出して感情を伝えようとするアツい場面が多く見られました。

昨年の大運動会は、修猷館全体の懸命な努力により不死鳥というスローガンの通り大運動会になりました。そして、この大成功に満足せず、この大成功に満足せず、



福岡発！ 修猷館の 2022年



ず、得られた経験を次に活かせるよう修猷生全員で頑張っていきたいです。

また、今年は新しい形を追求するだけでなく、どの形を伝統として残すか選択する必要があるため、1、2年生は今年そこを頑張ってください。今年はいま大運動会になるのか、皆様ぜひご期待下さい。



「耐えて頑張れ」
黄プロック長
大場 祐依（3年）

私達の修猷生活には常にコロナの存在があります。特に三年は、入学式や応援歌指導、研修旅行を始めとする学校行事の多くが中止、短縮となり悔しい日々を過ごしてきました。そんな私達にとって第75回修猷大運動会はまさに、念願のそして挑戦の大運動会でした。課された制限下において、完全体の大運動会を経験したことの無い私達が目指したのは「新しい」大運動会を創ること。私が大運動会で得たことは、協力するだけでなく本気でぶつかり合うことによって、より良いものが生まれるということです。大声を出したい。棒倒しをしたい。こんな風にしたい。やりたかったことの殆どは、制限によって実現が難しく、もどかしさややるせなさに打ちのめされそうになることもありましたが、それでも耐え、どうすれば実現できるのか、毎日毎日熟考を重ね何度も話し合いを行った努力の集大成が、当日の成功として表れたと感じています。綺麗事でも上辺だけでもなく、ただ大運動会に対して本気で熱い思いを持った仲間と挑み続けたこの夏は、間違いなく私達一人一人の人生の糧となるでしょう。このコロナ禍の生活がいつまで続くかわからないからこそ、これからを担う修猷生には、どんなに高い壁や困難にも耐え抜き、制限や弱みを前向きに捉えて、志を曲げずに次へと繋げていって欲しいと心から強く願っています。そして私達も「耐えて頑張れ」の精神で挑み続けていきます。



第 75 回大運動会
スローガン：不死鳥

学生がまとめた HP も
ぜひご覧ください。



アオハルデイズ

女子硬式テニス部
団体戦・県大会出場!!

出会い

江崎 遥（3年）

「仲間の大切さ」当たり前ではあるけれど、部活動を通して私が一番学んだことです。振り返ってみると、入部してから毎日私は仲間を支えられ、助けられ、励まされました。特に印象に残っているのは自分たちの引退がかかった最後の大会であるインターハイ予選です。



ディベート部
第27回ディベート甲子園
3位入賞!

全国大会を終えて

波多江 美琴（3年）

我々、ディベート部は第27回ディベート甲子園に出場し、3位入賞を果たしました。3年前は大会中止、一昨年はリモート開催となり、昨年3年ぶりに東京で現地開催が可能になりました。特に、3年生にとっては、最初で最後の対面試合となりました。全国から集まったいろいろな高校の方と交流ができ、とても刺激になりました。対戦前にお土産を交換したり、勝利した相手から、「私たちの分まで頑張ってください」と声をかけられたり、対面だからこそ経験できること、得られることが沢山ありました。

前年は一昨年のベスト16から大きく躍進し、3位入賞という嬉しい結果を残すことができました。沢山の練習試合を行って、様々なことを吸収し、部員1人1人が真剣に準備、対策してきたことがこの結果につながったと思っています。

ます。大会期間中の準備は毎日深夜までおよび、正直辛い部分もありましたが、賞状を受け取った時、頑張ってきた心から思えました。

また、この結果には顧問の先生、そしてOB・OGの方の支えが不可欠だったと思います。顧問である二宮先生は、より深い論議理解のために外部から講師の方を呼んでくださるなど、私たちが大きく支えてくださいました。二宮先生は、今大会において最優秀指導者賞を受賞されています。

OB・OGの方は試合前日、夜遅くまで電話で相談に乗ってください。沢山アドバイスしてくださりました。初めての対面試合に緊張している私たちにあって、とても頼もしい存在でした。修猷館の縦の繋がりを強く感じた瞬間でした。

沢山の方々に支えられて、3位という好成績を修めたことを本当に嬉しく思います。今年は、更なる高みを目指して後輩たちに頑張ってもらいたいです。



新聞部
創部76年の伝統と共に
活動を振り返って

森山 綾音（3年）

新聞部は学校や社会の変化に敏感に反応することが必要とされます。そのためか新聞部員はクラスで起こったことや世間を賑わせているニュー



スなど様々なことについて意見を交わします。今まで流れてに身を任せてフラフラと生きてきたような私は、入部当初記事を書けるほどの知識も語彙力もありませんでした。そのため、賢くてエネルギー豊かな部員たちに圧倒されてばかりで、そんな自分に引き目を感じ、自分の意見は言わないようにしていました。しかし、新聞を制作するにあたって議論は不可欠です。何を取り上げるのか、方向性をどう定めるのかなど話し合いを重ねて決めるべきことが沢山あります。そこで自分なりの意見を述べてみると、部員は自分の意見について一緒に考えてくれて、新聞制作をより良いものにすることができました。

議論と言っても、優れた意見や巧みな言葉遣いなどは必要ありません。浅い考えでも拙い言葉でも「伝える」ということに意味があると思います。そして議論に参加すること、知らなかった言葉や知識、新しい視野を得ることもできました。これは新聞部に限らず、運動部でも文化部でも事業部でも通用するのではないのでしょうか。チームのことを考え、感じたことを部員に伝えてみる。そして、周りの部員はその意見を受け止め行動に移してみたり、自分の考えを発展させてみたりする。小さなことですが、これがチームを大きく変えるきっかけになると思います。

岡本圭吾館長インタビュー

今年の秋に開催されるラグビーW杯フランス大会を記念し、選手、監督、そして館長として30年以上も修猷館のラグビーに携わり続けてこられた岡本圭吾館長に日本や修猷館ラグビーへの思いやあるべき像についてお話を伺いました。

生活やラグビーを通じて、その子の可能性を広げ未来を豊かにするのが目的だという事。「かつこいい人をつくりたい」という事やね。ただ指導法は、ティーチングからコーチング、ファシリテーション重視に変わってきた。でも生徒は、まだ子供でもあるからティーチングが重要なんだよね。

修猷でラグビーを始め、後に指導者になったきっかけは？

中三のときに修猷館が花園に行つてね、同じ中学出身の同級生が「ラグビー部に入部しとった（笑）。やり始めたらのめり込み、当時、指導されておられた森田先生、淵本先生という素晴らしい指導者に巡り会った。自分が好きで、やりたいと思える事として教員の道を選んだんやね。

修猷ラグビーで変わった事、変わらない事とは？

ずっと変わらないのは、高校



ラグビーは自己犠牲的な考え方であり、結びつきが強いという世界共通の特性がある。更に修猷館の団結力は他に類がないから、それをどんな活かしてつながついていくべきだね。修猷館というのは生命体だと思うから、古い細胞は壊して絶えず革新していかないとーそういう修猷館の校風、文化というものを大切にしたいと、心から思うね。

昭和47年卒 学年便り

岡上 貞夫
(昭和47年卒 常任幹事)

私達が東京修猷会総会の幹事を務めたのは平成10年だったから、もう24年も経過したことになる。「しゃ〜ない会」というやや投げやりな感じの幹事会名だったが、経団連会館での総会を無事に開催することができ、ほっとしたのを覚えている。

より強くて大きな相手に立ち向かう上で大切な事は？

部活でも日本代表でも、勝たいたいと思うだけでなく、どれだけ具体的に勝つ準備をできるかだと思ふ。その準備をやるという中に「これだけやった」というような変な自信が出てくる。日本代表が強くなったのは、エディーさんがそれをやったから。例え勝てる可能性が10%だとしても、勝つための戦略戦術を本気で信じ切つてやり切れるか？今の現役生が本場の意味で「最狂」になれるかやね。



第72回三金会ゴルフコンペ@千代田CC

最初の参加メンバーは7人だったが、それぞれが他の同期を誘い、徐々にメンバーが増え、そんな中、ゴルフ会だけでは屋外のスポーツなので、比較的感染リスクが低いとされ、クラスターも起きていなかった。何となく続いているのが近況である。

緊急事態宣言が解除された頃合いを見計らって、飲み会を開催しようとする、また感染の波が押し寄せ、やむなく中止を繰り返しているが、また気兼ねなくメンバーが集まって一杯やれる日が早く来ることを願っている。

えっていった。修猷時代の昔話や近況報告で酒宴は毎回盛り上がり、四季ごとに第3金曜日に集まったので、「三金会」と名付けた。

会の様子は自作のホームページでメンバーへも知らされ、飲み会の他に、山歩き会、ゴルフ会、カラオケ会、しゃがーるす（女性会）、横浜・横須賀方面の散策会など何かに理由をつけては集まるようになった。飲み会に至っては、毎月第三金曜日に定例開催するまでになっていた。

ところが、新型コロナウイルスのパンデミックが発生し、事態は一変してしまつた。飲み会は完全に自粛。カラオケ会も、感染リスクが高いので、全くやっていない。

花壇整備ボランティア「修猷なでしこ会」活動紹介

修猷館高等学校PTA副会長
平成元年卒 國府島 貴子（鉄川）

修猷館高校には平成20年にスタートした花壇整備ボランティアサークル「修猷なでしこ会」があります。PTA活動の一環として、卒業生保護者である日本花の会の石井康子さんのご指導のもと、現役生や卒業生の保護者有志が集い、生徒や来校される方へ心豊かに過ごせる空間を届けようと、年8回花壇整備を行っています。

花壇は、校風のように、自由で、元氣いっぱい生命力に溢れています。運動会の頃には、ブロックカラー「赤白青黄」の花々と運営「緑」が配置されています。玄関には二つのテーマの植木鉢があり、一つ

を開催しようとする、また感染の波が押し寄せ、やむなく中止を繰り返しているが、また気兼ねなくメンバーが集まって一杯やれる日が早く来ることを願っている。



育環境を整えていただいた方々には感謝の念に堪えませぬ。そして今、自分が母校と後輩のために活動できる場があることが幸です。

修猷館を巣立った生徒・保護者の方々が、何年後、何十年後に、母校後輩のために活動する場、また色々なつながりを得る場として、なでしこ会の活動がいっまでも続くことを願っています。

2022年度寄付金

2021年11月1日から2022年10月31日までに多数の皆様から御寄付をいただきました。ありがとうございました。御礼の意味を込めて御名前を掲載させていただきます。

(敬称略・卒年別)

(昭26)横瀬一郎、(昭26)藤吉敏生、(昭26)中村道生、(昭27)金田久仁彦、(昭28)吉見健三、(昭28)田中憲明、(昭30)遠山壽一、(昭30)田中榮次郎、(昭31)伊達直哉、(昭31)村田和夫、(昭31)箱島信一、(昭31)影山滋、(昭31)浅田恭夫、(昭32)鳥居健太、(昭32)國分英臣、(昭32)藤本達也、(昭32)平野熙幸、(昭33)大西正俊、(昭33)貴隆夫、(昭33)武石忠彦、(昭34)行武賢一、(昭34)讃井邦夫、(昭34)服部富美子、(昭34)伴拓郎、(昭34)苛原真也、(昭35)三嶋睦夫、(昭35)伊藤洋子、(昭35)可児晋、(昭36)濱地康彦、(昭36)安藤誠四郎、(昭36)倉成洋三、(昭37)大須賀頼彦、(昭38)上田茂、(昭38)渡辺紀大、(昭39)久保田康史、(昭39)松本睦彦、(昭39)長正次郎、(昭39)貝島資邦、(昭40)長谷川閑史、(昭40)棚町精子、(昭40)田村幸雄、(昭40)山形紀明、(昭41)新井眞理子、(昭41)北郷秀樹、(昭41)桑原昭二、(昭41)安田修之助、(昭42)溝上雅史、(昭43)徳重博史、(昭44)伊佐裕、(昭44)坂井真知子、(昭45)等健次、(昭45)本田由紀子、(昭46)栗山英俊、(昭46)森山幹夫、(昭46)鹿見島正信、(昭47)田辺宣孝、(昭48)高山信彦、(昭48)北戸春雄、(昭49)井手富士雄、(昭49)橋村秀喜、(昭49)片山弘毅、(昭50)小林みどり、(昭50)高西淳夫、(昭50)橋詰眞義、(昭50)野中哲昌、(昭51)中屋祐司、(昭51)加藤純一、(昭51)久保田馨、(昭51)油田哲、(昭53)安藤俊裕、(昭53)阿部次郎、(昭55)河原俊也、(昭56)田中昭人、(昭56)鶴泰治、(昭56)弥富裕治、(昭57)小林大輔、(昭57)遠藤功暁、(昭57)西岡修、(昭57)遠藤功暁、(昭57)遠藤亜子、(昭58)井手慶祐、(昭58)原沢由美、(昭58)井手慶祐、(昭59)服部豊、(昭60)山根堅司、(平3)小島裕子、(平4)宇高俊匡、(平5)澤木祐介、修猷館同窓会

東京修猷会 年会費納入のお願い

東京修猷会の会報の印刷・発送をはじめ年間行事等の活動は、全て皆様の年会費3,000円で運営されております。どうぞ会費の納入にご協力ください。

●年会費は年間を通じて受け付けております。

郵便振替、銀行振込、コンビニ振込、クレジットカード決済が選べます。二木会や総会の受付でも可能です。

郵便振替

口座名義：東京修猷会事務局
口座番号：00170-6-172892

銀行振込

銀行名：ゆうちょ銀行 口座名義：東京修猷会事務局
店名：〇一九(ゼロイチキョウ) 店番：019
預金種目：当座 口座番号：0172892
同封の振込用紙をご利用下さい。

コンビニ振込

クレジットカード決済

東京修猷会のホームページから申込みください。
《東京修猷会 <https://shuyu.gr.jp/tky/2016/01/nenkaihi.html>》

お振込のうち年会費を超える額はご寄付とさせていただきます。郵便振替・銀行振込は会員の特定が困難な場合があります。必ず卒年をいれるようお願いいたします。

執行部役員紹介



松尾 武 新副幹事長
(平成元年卒)

このたび副幹事長を拝命しましたガンガン会の松尾武と申します。主に常任幹事会および会計を担当させて頂きます。総会・二木会の幹事学年の活動を通じ、数多くの同期・先輩・後輩とお会いする中で、かけがえのない経験をすることが出来ました。館友の皆さんにとって、東京修猷会が何歳になっても、いつ来ても楽しめる場であり続けられるよう、微力ながら尽力して参りますので、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

編集後記

会報制作にお力添え下さった執筆者の方々、研恒社の皆様、サポート頂いた執行部、先輩、同期、後輩関わった全ての方に、厚く御礼申し上げます。今号を通じ知り合えた様々な世代の方々、本業等でご多忙の中でも、同窓や後輩の為に、私たちからお願いを快く引き受けて下さいました。人を思う皆様の気持ちに触れ、コロナ禍という時代故か、より強く、人と人との繋がる喜びを実感致しました。今号は初めて現役3年生に配布されます。小さな変化、小さな挑戦がきっかけとなり、一人でも多くの方に、素敵な繋がりが生まれることを心より願っております。